

21. naked 培地を利用したイチゴの育苗技術

－ 年内収量の増加を目指して －

1. 背景とねらい

11～12 月のイチゴの販売単価は、クリスマス需要等により高く、年内収量の増加が所得の向上につながります。このためには、夏季の育苗時期の昇温抑制を図ることにより花芽分化を促進させる必要があります。そこで、naked 培地を利用して、培地から気化熱を奪い、培地温の上昇を抑える育苗技術を開発中です。

2. 技術の内容

- 1) naked 培地は、バーミキュライト、ピートモス、パーライトを熱融着性ポリエステル繊維で固めたもので、ポットを用いず形状を維持し、表面がむき出しの培地です(図 1)。空気に接する培地表面積がポリポットよりも大きいため、培地中の水分が気化しやすく、培地温の上昇を抑えられます(図 2)。
- 2) 培地温の上昇を抑えるためには、培地表面を乾燥させない間隔での均一な給水が効果的で、開発した底面給水装置で育苗します(本成果情報 13 参照, 図 3)。
- 3) (1) 「紅ほっぺ」の花芽分化は、naked 培地が 8 月末で、ポリポットでの育苗と比べて約 14 日早くなります(図 4 左)。
(2) 収穫開始は、naked 培地が 11 月中旬で約 1 ヶ月早くなります(データ省略)。
(3) 年内収量は、naked 培地が約 150g/株で 3.7 倍に増収します(図 4 右)。
(4) 5 月までの総収量は、同等以上です(データ省略)。

3. 今後の計画

- 1) 夏季の高温が高い南部沿岸地域で現地実証を行い、低コストな 130 mL タイプの naked 培地について実用性を確認します。

(栽培技術研究部)

4. 具体的データ



図 1 実験に用いた naked 培地
(9cm ポリポット型, 容量 250mL)

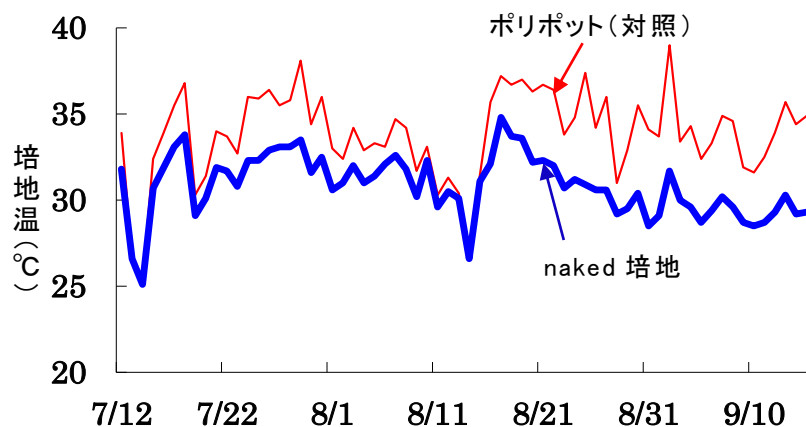


図 2 日最高培地温の推移 (2012 年)



図 3 育苗中のイチゴの様子

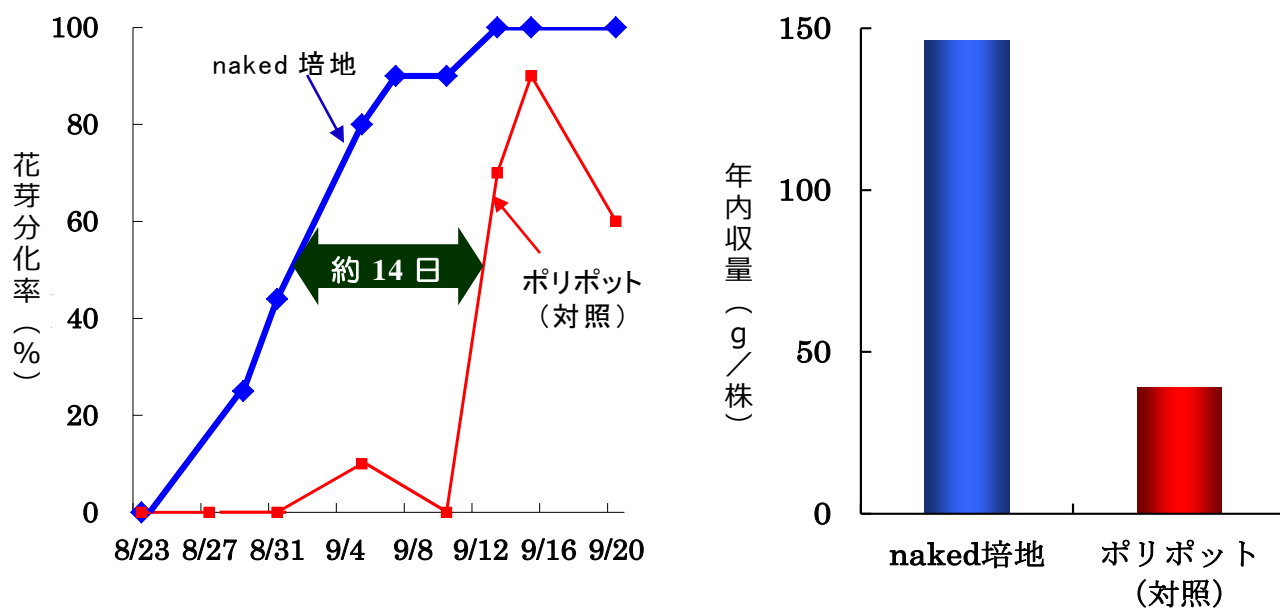


図 4 「紅ほっぺ」での花芽分化の推移 (左) と年内収量 (右, 2012 年)